



物質の化学結合の情報が得られる
ラマン分光装置

平成28年8月4日（木）

あいち産業科学技術総合センター

共同研究支援部 計測分析室

担当 山田、船越、池口

ダイヤルイン 0561-76-8315

愛知県産業労働部産業科学技術課

管理・調整グループ

担当 山田、加藤

内線 3389、3388

ダイヤルイン 052-954-6347

計測分析に関する講演会の参加者を募集します 「赤外分光法・ラマン分光法による工業製品の分析」 ～薄膜から異物分析まで～

あいち産業科学技術総合センターでは、高度計測分析機器を用いた分析・評価により、企業の方々の新技術・新製品開発への取組や現場の課題解決を支援しています。

この度、新製品開発や品質保証に関して御相談の多い「赤外分光法^{*1}・ラマン分光法^{*2}による工業製品の分析」に焦点を当てた講演会を、平成28年9月8日（木）に開催します。

赤外分光法・ラマン分光法は、発光ダイオード、トランジスタ、太陽電池などの有機半導体薄膜の構造に関する評価や、自動車排ガスを浄化する触媒の解析、また多層フィルムや異物の測定に有効です。本講演会では、これらの測定の具体例をあげながら工業製品を中心とした分析について解説します。

講演後は、計測分析に関する個別の技術相談会や、当センターの計測分析機器及び隣接するあいちシンクロトロン光センター^{*3}の見学会を行います。

参加費は無料です。多くの皆様の御参加をお待ちしております。

1 日時

平成28年9月8日（木） 午後1時30分から午後4時45分まで

2 場所

あいち産業科学技術総合センター 1階 講習会室

豊田市八草町秋合1267-1 電話：0561-76-8315

（東部丘陵線リニモ「陶磁資料館南」駅 下車すぐ）

※会場へは公共交通機関を利用してお越しく下さい。

3 主催等

主催：あいち産業科学技術総合センター

共催：公益財団法人科学技術交流財団

4 内容

(1) 講演 1 (午後1時35分～午後2時35分)

「赤外・ラマン分光法による有機半導体薄膜の評価」

講師：早稲田大学 先進理工学部 化学・生命化学科 教授 ふるかわ ゆきお 古川 行夫 氏

(2) 講演 2 (午後2時45分～午後3時45分)

「赤外分光法を中心としたガス、触媒、ポリマーの反応解析」

講師：株式会社東レリサーチセンター 構造化学研究部 構造化学第1研究室

主任研究員 くまざわ りょういち 熊沢 亮一 氏

(3) 事例紹介 (午後3時45分～午後4時00分)

「当センターにおける赤外・ラマン分光法の測定事例」

担当：あいち産業科学技術総合センター 共同研究支援部 計測分析室

主任 やまだ けいじ 山田 圭二

(4) あいちシンクロトロン光センター紹介 (午後4時00分～午後4時15分)

「シンクロトロン光*4による材料分析」

担当：あいちシンクロトロン光センター

シンクロトロン光産業利用コーディネータ あずま ひろずみ 東 博純 氏

(5) 技術相談会および見学会 (希望者のみ) (午後4時15分～午後4時45分)

①あいち産業科学技術総合センター共同研究支援部 (高度計測分析機器)

②あいちシンクロトロン光センター

5 参加費

無料

6 定員

100名 (先着順)

7 申込方法

- ・技術開発に取り組む企業の方々を始め、どなたでも自由に参加できます。
- ・参加申込書に必要事項を記入の上、FAX、郵送または電子メールでお申込みください。
- ・申込書はあいち産業科学技術総合センターのホームページ(<http://www.aichi-inst.jp/>)からダウンロードできます。

8 申込期限

平成28年9月7日 (水) まで (必着)

※定員に達し次第締め切ります。

※技術相談会については、希望者多数の場合、後日対応します。御了承ください。

※参加受付証は発行しません。お申込みの上、直接会場にお越し下さい。なお、定員超過により、御参加いただけない場合は連絡させていただきます。

9 申込み及び問合せ先

あいち産業科学技術総合センター

共同研究支援部 計測分析室 (担当：山田、船越、池口)

〒470-0356 豊田市八草町秋合1267-1

電話：0561-76-8315 FAX：0561-76-8317

mail：AIC0000001@chinokyoten.pref.aichi.jp

URL：http://www.aichi-inst.jp/

【用語説明】

用語	説明
*1 赤外分光法	物質に赤外線を照射したとき特定の波長が物質に吸収されることを利用して化学結合の情報を得て、化合物の部分的な構造の推定や定性を行う分析手法である。
*2 ラマン分光法	物質に光を照射したとき入射光とは異なる波長に散乱されるラマン散乱（非弾性散乱）を利用して化学結合の情報を得て、化合物の部分的な構造の推定や定性を行う分析手法である。赤外分光法とラマン分光法では原理的な違いから高感度に検出できる化学結合の情報が異なり、双方の分析手法を併用することで、より詳細に解析することが可能である。
*3 あいちシンクロトロン光センター	（公財）科学技術交流財団が運営する、ナノテク分野の研究開発を支援する最先端の計測分析施設。平成 25 年 3 月に「知の拠点あいち」にオープンした。愛称：Aichi SR。産業利用を主目的としており、あいち産業科学技術総合センターが備える高度計測分析機器との相互利用を図ることにより、地域企業の技術的な課題解決を強力に支援する。
*4 シンクロトロン光	シンクロトロン光とは、ほぼ光速で直進する電子が電磁石によって進行方向を変えられた際に発生する電磁波。非常に明るく（通常の計測装置で用いる電磁波の千倍から百万倍）、1 台の装置でマイクロ波、赤外、可視、紫外から X 線まで連続した波長の光を出すことができる。この光を利用して様々な計測・分析を行う。